



ねん土はどうやってできるの

溶岩や火山灰などからできた

ねん土は砂のつぶよりも、もっと小さいつぶでできています。火山の噴火のときに出てきた、溶岩や火山灰がもとになってできています。

溶岩や火山灰は長い間かかって、その一部が地表の温度の変化で、のび縮みしてひび割れたり、風にけずられたりしてどんどん細かくなり、雨や、川や海の水に流されて集められ、だんだんと積み重なっていきます。これを地層といいます。積み重なっているうちに、地面の重さなどで強くおされ、おし固められていきます。

砂などが小さくなった

積み重なってできている物は、大きな岩、石、砂、ねん土などがふくまれています。長い時間かかって、砂がもっと小さいつぶになります。

砂が小さくなったつぶや、動物の骨、それに、植物のくさった物などが、細菌によって分解されて積み重なり、これらが混じった、非常に小さいつぶのねん土になります。ねん土は、自然の力でつくられたものです。（監修・小川 格）

火山灰の地層

